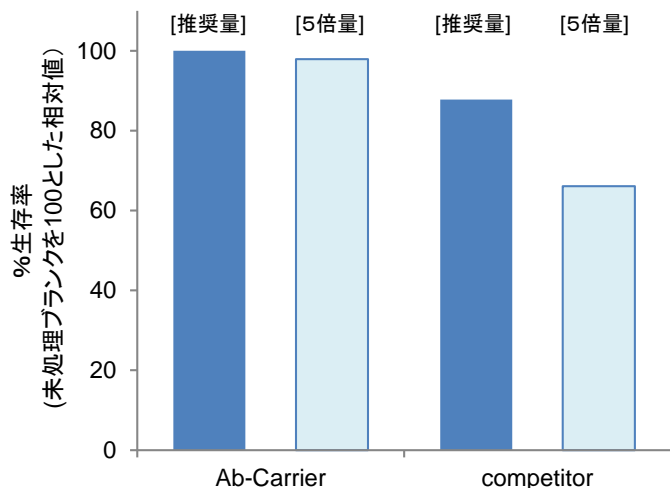


WST-1 アッセイ法 による Ab-Carrier™ の 細胞毒性の評価

実験プロトコール

HeLa 細胞を 96-well plate に播種
(5.0×10^3 cell / well; 培地液量 MEM (+10% FBS) 0.1 mL / well)
↓ 37°C, 5% CO₂ 存在下, 24 時間 培養
control IgG (goat; 0.1mg/mL) 20 μ L に Ab-Carrier 1 μ L を加え、よく混和
↓ 室温, 20 分間 静置
24 時間培養後の HeLa 細胞に反応液ミクスチャーを添加
[推奨量] 1.5 μ L / well
[5倍量] 7.5 μ L / well
↓ 37°C, 5% CO₂ 存在下, 24 時間 インキュベーション
培地を除去し、PBS で 1 mL / well \times 2 回 洗浄
↓
WST-1 試薬 (MEM培地: pre-mix WST-1 = 10:1) 110 μ L を添加
↓ 37°C, 5% CO₂ 存在下, 2 時間 インキュベーション
A 450nm (reference ; A 630nm) を測定

WST-1アッセイ試薬:
Premix WST-1 Cell
Proliferation Assay System
(タカラバイオ社)



%生存率
(未処理ブランクを100とした相対値)

	[推奨量]	[5倍量]
Ab-Carrier	100	97.9
Competitor	87.8	66.1

96-well plate に播種24時間後のHeLa細胞 (5.0×10^4 cells / mL) に、抗体トランスフェクション試薬 Ab-Carrier とヤギIgG のミクスチャーを添加し、24 時間培養後の細胞生存率をWST-1 アッセイにより評価した。Ab-Carrier 添加24時間後の細胞生存率は、推奨量の5倍量を添加した場合でも、97.9%の高い値を示した。一方、競合品(competitor) を添加した細胞では、推奨量で 87.8%、5倍量で 66.1%まで低下した。以上の結果から、Ab-Carrierは、推奨量の5倍量を加えても、細胞毒性を示さないことが確認された。

プロテノバ株式会社

〒769-2604

香川県東かがわ市西村1488番地1

TEL 0879-49-0702 / FAX 0879-49-0703

ホームページ <http://protenova.com>